

平成 30 年度 真壁城跡^{なかじょう}中城庭園の調査

調査のポイント

県内最大規模の庭園跡をもつ真壁城跡。庭園の“周辺部”の調査。

【真壁城と調査の目的】

真壁城は室町～安土桃山時代に築かれた真壁氏累代の居城です。平成 6 年（1994）国史跡に指定後、平成 9 年（1997）より保存や整備のための発掘調査を開始しました。現在は中城地区（三の丸）中央部の中世庭園跡（中城庭園）の全体像解明を目的として調査を実施しています。

【中城庭園の過去の調査成果】

平成 16・17 年度に実施した調査で、池跡（南池）や大規模建物跡群、能舞台跡、茶室跡、石組水路跡などを発見し、出土遺物から 16 世紀後半から真壁氏秋田移転の 1602 年まで（安土桃山時代・当主真壁氏幹）の庭園跡であることが判明しました。

平成 26～29 年度の調査では、さらに池跡（北池・水路状の池・薬研堀状の池）や茶室跡、園路跡などを確認しました。庭園の池は南池から水路状の池を通して北池、そして薬研堀状の池へと水が流れる構造であることが判明しました。また、庭園全体の面積は 7000～8000 平方メートルと推定され県内最大規模となりました。

なお、出土遺物には庭園で催された酒宴や茶会で使用したと考えられるかわらけ（素焼きの盃）や茶道具、香道具、中国産の高級磁器などがあります。

今回明らかとなったこと

- ★庭園へと入る園路を確認。 → どのように庭園へと入ったのか。
- ★炉や井戸の跡を確認。 → 饗宴や茶会の食事をつくる場か。
- 園路周辺で植木跡や景石跡などを確認。 → 庭園としての美観を意識。
- 園路や城道に沿う排水溝を確認。 → 庭園の周辺部でも排水を意識。

※本資料の作成は桜川市教育委員会生涯学習課が行いました。

真壁氏と真壁城について

◎常陸平氏に祖を持つ真壁氏

【真壁氏の出自】

真壁氏は平安時代末期に真壁郡に郡司として入部した平長幹を初代とする常陸平氏の一族です。鎌倉幕府の記録である『吾妻鏡』の文治五年（1189）八月十二日条ではじめて歴史に登場する「真壁六郎」なる人物が平長幹と考えられています。

【領地】

真壁氏はおおむね旧真壁町・大和村・明野町付近（真壁郡）を領地とし、長岡や白井、椎尾、本木、飯塚などに一族を配しました。

【拠点】

真壁城は室町時代から戦国・安土桃山時代にかけての真壁氏の居城となっていました。戦国時代の当主 17 代真壁久幹により大幅に改修され、息子の氏幹まで使用されたことが発掘調査により明らかとなりました。また、近年の調査では、三の丸にあたる中城から大規模な建物跡群や能舞台、茶室、苑池などで構成された県内最大の城郭庭園が発見されています。

また、真壁城の城下町は現在の重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）である「真壁の町並み」の基礎になっています。

◎国指定史跡真壁城跡

【立地】

南北に連なる筑波山系は、その稜線を境としていくつもの尾根が東西へと広がっています。真壁城は北西方向へのびる尾根が徐々に平地へと下り微高地となった位置に築かれています。

【城の形・規模】

平地に築かれた城（平城）で、本丸を中心に二の丸、中城、外曲輪が外側を巡ります。北を田中川、南を山口川に挟まれた東西に長い城域をもち、規模は東西 850m、南北 400m を測ります。堀や土塁は「横矢がかり」という複雑な折れ構造となっています。

【年代】

室町時代後半（1450 年頃）に築城され、慶長 7 年（1602）の真壁氏の秋田移封とともに廃城となりました。築城当初は方形の館でしたが、幾度かの改変・改修を経て、現在の形となりました。大きな改変は 17 代真壁久幹の頃（16 世紀後半）に行われ、息子氏幹の頃に部分的な改修が行われました。

【史跡指定】

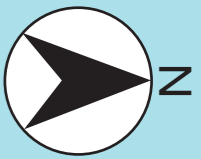
平成 6 年 10 月 28 日に国史跡となり、その範囲は堀や曲輪が良好にのこる東側全体で（本丸含む）、面積は約 12.5ha です。西側へも城域は広がっており、大字古城という地名で本来の真壁城の範囲を知ることができます。



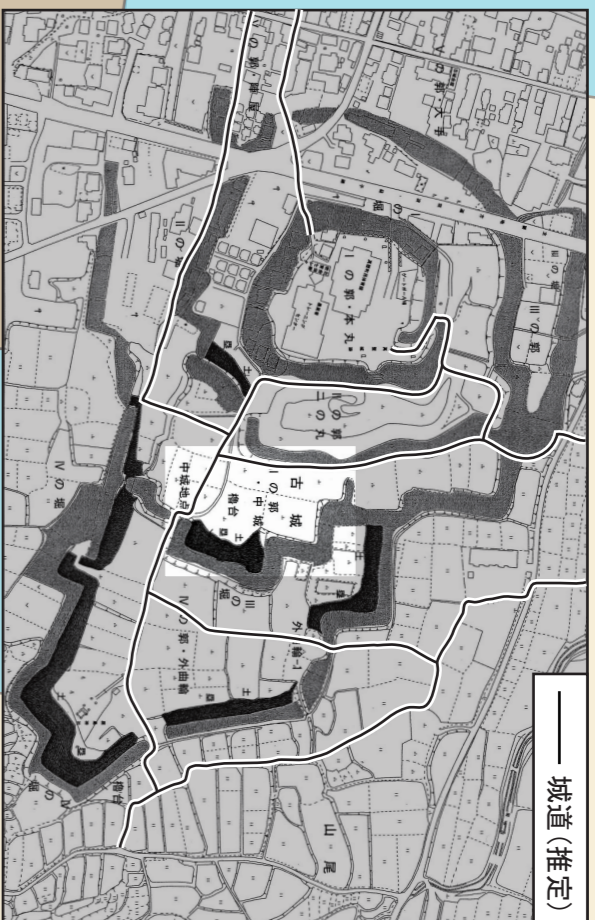
航空写真



全体図



史跡真壁城跡
中城地区中央部出土遺構模式図
(平成30年11月末現在)



薬研堀状の池
(排水・貯水)

平成30年度の調査範囲
(庭園の周辺部)

城道

仮設道路

土塁の内端溝
新
旧

土塁

北池

IIの堀

IIIの堀

水路状の池

槽?

土塁

庭園へ入る
主なルート(推定)

南池

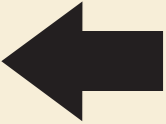
主殿

建物

能舞台

会所

筑波山方向



南の茶庭

土塁

庭園復元イメージ図

